

在宅ホスピスケアセミナー開催によせて

現在、日本において、緩和ケアが急速に浸透してきたことは喜ばしい事ですが、”ホスピス”の心と哲学の学びが乏しいように感じてなりません。

医療者自身のメメントモリ（死を想え）や、いのちを支える意味での気付きと再確認なくして、看取りの場での十分な働きはできないのでは、と思っています。まさにその学びこそが、ホスピスケアで働くものたちを支え、燃え尽き症候群を防ぐひとつの対策になり得ると思います。

ホスピスの原点に立ち戻るために、今回は日本でのいのちの分野の最高峰の講師の先生方が奉仕の心で甲府においでくださり、大切なメッセージを伝えてくださいます。日本財団の助成をいただき実現した勉強会。対象は主に医療関係者ですが、お席に空きがあればホスピスケアに興味のある一般市民の方々もどうぞ。貴重な機会に是非ご参加ください。

日本ホスピス・在宅ケア研究会山梨支部 代表 内藤いづみ

井上 ウィマラ さん

1959年山梨県生まれ。京都大学文学部宗教哲学専攻中退。日本の曹洞宗、ビルマのテーラワダ仏教で出家して仏教瞑想と仏典を研究。カナダ、イギリス、アメリカで瞑想指導をしながら心理療法を学ぶ。現在は高野山大学スピリチュアルケア学科准教授。おもな著作に、『人生で大切な5つの仕事』（春秋社）、『子どもの心のありかに寄り添う』（主婦の友社）、『呼吸による気づきの教え』（佼成出版社）などがある。

小宮山 照美 さん

1998年に諏訪中央病院緩和ケア病棟が作られ、開設当初の4年間看護師長を務める。内藤医師との連携が濃かった時期であり、「当時 緩和ケア病棟の看護師長として、患者さんとその家族への援助、入退院のタイミング等 絶妙な看護をしていただき感謝しています。」と内藤医師は話す。設前の10年間は緩和ケア病棟の礎に繋がる、院内多職種による勉強会「生と死を考える会」のメンバーでもあった。今回は再びのご縁により講師としてご参加いただきました。

講師紹介

内藤 いづみ さん

山梨県甲府市で小さな緩和ケア診療所、ふじ内科クリニックを営む。イギリスのプリンス・オブ・ウェールズ・ホスピスで研鑽を積み、依頼20年以上ホスピスケアに取り組んでいる。在宅ホスピス医。著書：『「いのち」の話がしたい』佼成出版、『最高に幸せな生き方 死の迎え方』講談社、『あした野原に出てみようー在宅ホスピス医のノートからー』オフィスエム、など多数。

藤森 朋子 さん

諏訪中央病院等で看護師として勤務。退職して現在は、長野県茅野市でケアサロン「Sincerely」を営む。アロマセラピスト・ベビーマッサージアドバイザーとして、妊産婦と赤ちゃんを中心とした母子のケアに取り組んでいる。妊産婦、高齢者、介護家族、医療従事者等のアロマセラピー講座の講師も勤める。

第3回

10月1日(水) 午後6時～8時

◎鎌田 實さん (特別講演)
諏訪中央病院名誉院長

◎石田 有紀さん
メディカルケアプランニング代表
薬剤師・メディカルソーシャルワーカー

今後の開催スケジュール (予定)

どの回にもホスピスケアの
Heart (心)
Hand (技術)
Head (知識)

という ”3つのH” をふまえたユニークな勉強会です。

第4回

10月27日(月) 午後6時～8時半

◎鈴木 秀子 シスター
国際コミュニケーション学会名誉会長

◎鈴木 勉さん
星薬科大学教授

◎内藤いづみさん
ふじ内科クリニック院長・在宅ホスピス医